

実践のまとめ(第4学年 社会科)

上越市立東本町小学校 教諭 五十嵐 徳也

1 研修テーマ

実社会における社会的事象から学習課題を見出し、
汎用的な概念をつくりだす力を育てる
～身近な文化的遺産にかかわろうとする活動を通して～

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領では、新たに整理された3つの資質・能力をふまえながら、実社会における人や諸団体とかかわりながら活動することが求められており、子どもの課題把握、追究、解決の過程を重視していくことが、主体的・対話的で深い学びへとつながることが指摘されている。また、他者と協働して課題を解決していきながら、情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして、新たな価値につなげていくことが大切だと述べられている。

学習指導要領の方向性を踏まえると、社会的事象から学習課題を見出す活動を重視する必要があると考える。そのためには、子どもの発達段階をふまえ、身近な社会的事象を取り上げることが大切となる。つまり、取り扱う社会的事象の選定が、課題把握と課題追究に向かう子どもの姿に大いにかかわってくるといえる。また、学習活動を行っていくうえで、知識の質を変化させていくことも大切となる。学習の対象と実際にかかわる過程で自分が得た情報を基にしなが、仲間とともに考えたことを伝え合うことで、蓄積された知識が変化していく。こうした経験の積み重ねが、子どもが新たな考えを創出することへとつながり、汎用的な概念の習得へとつながる。このような学習活動を構想していくために、本研究テーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

① 子どもと社会的事象との関係性から単元をデザインする。

子どもの日常生活の中にある事象を対象とし、子どもが対象と出会い、どのようにアプローチしていくのかを考えながら単元を構成していく。本実践では、当校の子どもの日常に深くかかわり続けている雁木を対象としている。登下校や遊びに出かける際に通る雁木は、子どもが毎日通り使う東本町に伝わる歴史的文化的文化財であり、その日常性を生かした活動を構想する。雁木の歴史的価値・今日的価値について、みんなで歩いて疑問や考えを共有したり、専門家から話を聞いたりしながら、情報を集めていく。本実践では、情報を自ら集めていき、情報を整理しながら思考を深めていく活動を展開していく。

② 単元で学習したことを踏まえ、文化的遺産の今日的価値について考える活動を設ける。

集めた情報から、文化的遺産の歴史的価値は普遍的なものとして受け入れていくことができる。しかし、今日的価値は個々人の価値観によって異なるものである。だからこそ、本実践では、その価値について語り合い、多様な価値を受け入れながら自分の考えをつくれるように単元を構成していく。この活動で生まれた多様な価値観は、世界に存在する歴史的文化的文化財を見つめるための窓となり、社会を見つめる目となっていく。

(3) 研究テーマに関わる評価

次の2つの観点から評価を行う。

- ① 雁木の歴史的価値と今日的価値について、体験や資料から得た情報を基に自分の考えを文章で述べている。(記述テスト)
- ② 雁木が内包する価値に気づき、雁木を中核としたまちづくりについて自分の考えをもち、身の回りの社会的事象と関連付けながら考えている。(ワークシート、ノート、発言)

3 単元と指導計画

(1) 単元名

「高田に伝わる雁木」(「昔から今へと続く町づくり」単元の開発教材)

(2) 単元の目標

自分が住む地域の気候や風土に合わせてつくられた雁木について調べることを通して、昔の人の知恵や工夫について理解するとともに、現在ある雁木を生かしたまちづくりの在り方について考える。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
江戸時代に作られた雁木が、時代が変わっても継承され、生活の中に根付いていることを理解している。 地図や写真などの資料を用いて、読み取ったことをノートにまとめる。	調べたことや話し合ったことを基に、雁木の価値やこれからのまちづくりについて考えたことを適切に表現している。	雁木とこれからのまちの在り方のかかわらせながら、高田の町がどうあるべきか、自分なりの思いをもって学習活動を進めている。

(4) 単元の指導計画と評価計画(全12時間、本時10/12時間)

次(時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 雁木を歩いて調査する。 雁木や町家についての情報を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 雁木が続いているよさについて考える。 雁木を観察する過程で学習課題をつくる。 	知・技 町内にある雁木を比較しながら雁木についての情報を収集している。【ノート】
2 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ○雁木がもつ価値について考える。 2つの立場から雁木の利便性を考える。 自動車がない時代において、雁木がどのような価値をもっていたか理解する。 雁木にまつわる取組について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 雁木がもつ歴史的・文化的価値について話し合う。 日常的に雁木を使っている利用者、雁木を提供している住人の立場から、雁木について考える。 ゲストティーチャーから、雁木や町家の構造等について話を聞く。 	知・技 雁木の歴史的価値を理解している。【ノート・発言】 思・判 仲間の意見を聞きながら、雁木の価値について適切に表現している。 【ノート・発言】
3 (3) (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○雁木の価値の今昔について考える 雁木のこれからとまちづくりについて 		思・判 資料から、課題を見出したり、課題について自分の考えをつくったりしている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雁木にまつわる現代的な課題について ・ 雁木の価値を生かしたまちづくりについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雁木がもつ価値について話し合い、雁木について自分の考えをもつ。 ・ 移住者から、雁木についての思いや取組の実際について聞く。 ・ 雁木を生かしたまちづくりについて、自分の考えをまとめる。 	<p>思・判</p> <p>雁木の歴史的価値や今日的価値を踏まえながら、どのようになってほしいか、自分の思いをもっている。</p>
--	--	---	--

4 単元と児童

(1) 単元について

本単元で扱う雁木は、本校の校区に住む方々が400年もの長きにわたり脈々と受け継いできた歴史的文化遺産である。日常生活の中で今も使い続け、自分や仲間も常に使い続けている遺産だからこそ、子どもが歴史を学ぶ切り口とするにふさわしいと考える。雁木に対する人々の意識について理解したり、文化的価値を学んだりすることで、雁木を地域の誇りととらえていくことができる。

しかし、雁木には、ところどころで途切れていたり、移住して空き地になっている場所、積雪に耐えかねて崩れてしまう空き家などがあつたりするという問題があり、歴史的文化遺産でありながら、継承が難しくなっているという一面を持ち合わせている。本単元では、自分の生活と結びついている雁木のよさを理解しながらも、その維持・継承の難しさについても触れ、これからのまちづくりをどのようにしていくことがよいのか、考えていく。

なお、本実践は、歴史的文化遺産とまちづくりの双方を兼ねて構想をしている。教科書では、歴史的文化遺産と昔からつづくまちづくりの2つの単元を設定しているが、歴史的文化遺産とまちづくりは深くつながっている場合があり、雁木はそのどちらの特性も内包している。雁木の歴史的価値と今日的価値を関わらせながら考えていくことで、地域社会のこれらについて自分の考えをもつとともに、地域に対する愛着を育てていく。

(2) 児童の実態

1学期、児童は校区内のごみステーションを調査し、新興住宅地と雁木のある地域でのごみの集め方の違いに気付いた。雁木は「細い通りだから固定式のごみステーションを設置せず、ごみ当番が毎朝設置と片付けを行っていること」を知った。大変な面がありつつも、遠くまで行かずともごみを出すことができることや協力体制ができている等のメリットについても気付いた。また、総合的な学習の時間では、雁木通りが、400年前に高田の町がつくられた当初からあつた通りであることや、町家の工夫と併せて雁木の工夫について知った。すでに、雁木を高田の魅力であると捉えている子どもが多い。

本学級には、社会的事象に主体的にかかわり、考えたことを積極的に伝え合うことを好む児童が多い。また、意見交流を聞きながら、じっくりと考える子どもも多く、学級全体として学びに対して前向きな子どもが多い。子どもが自ら学びのあゆみを進めることができるように、学習対象である雁木を歩きながら調査したり、そこで得た情報を基に知識を身に付けたりしていく活動を重視し、学習活動を子ども同士の交流を基にしながら進めていくことができるようにしていきたい。

5 本時の展開(令和4年10月11日実施)

(1) ねらい

雁木の歴史的な価値と今日的価値を比較する活動を通して、雁木に込められた様々な立場にある人々の思いや願いについて理解するとともに、雁木にまつわる多様な価値観が存在することについて考える。

(2) 展開の構想

ゲストティーチャーからの講話を聞き、子どもは雁木がもつ歴史的価値の重要性やそうした価値を未来に伝えていこうとする人の思いの強さを感じ取った。ゲストティーチャーが語る日本文化を表象するような雁木と新旧多様な形で存在する現在の雁木を比較し、それぞれの価値を受け入れながら、雁木について見方を深めたり広げたりしていく。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	○教師の働き掛け ・予想される児童(生徒)の反応	□評価 ○支援 ◇留意 点
15	○ゲストティーチャーの講話の振り返り	○ゲストティーチャーから聞いたことを振り返る。 ・お店が閉まっているから、雁木に空き家が目立ってきている。 ・新しい雁木を見て、高田の魅力が大きくなると思う。 ・移住者が来ているから、これから少しずつ人が増えてくるといいと思った。	○メモを見ながら振り返ることを伝える。 ◇ゲストティーチャーが雁木の住民であることを押さえる。
25	○多様な雁木に対する捉えの交流	○これからの雁木はどうあればいいと思うか、問う。 ・昔のような雁木が少しずつ増えていけば、高田の魅力がもっと伝わる。 ・費用の面があるから、住んでいる人の負担を助ける必要がある。 ・雁木は、形も大切だけど、みんなが協力してつなげていることに意味がある。 ○振り返りを書く。 ・雁木に込められた思いが一番大切だと思った。	○数種類の雁木の写真資料を提示する。 ◇誰の立場にたっているのか明らかにするとともに、それをふまえて板書をする。 ○これまでの学習と関連付けられるよう、ノートを振り返るよう促す。 □話し合いを基に、自分の考えをノートに記述している(思判)。
5	○まとめ	○捉えの多様性について伝える。 ○雁木に移住した人に話を聞いてみることを伝える。	○学習のまとめを行い、次の学習時間の内容を伝える。

(4) 評価

- ・話し合いの中で意見を出したり、話し合ったりしたこと等を基に自分の考えをノートに書いている。(思考・判断・表現)

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際(指導の実際)

① 共通体験を基に話す子ども

単元のはじめは、子どもと雁木を歩きながら、雁木の観察を行った。子どもは、雁木の形や素材の違い、雁木が切れる場所や空き地があることなどに気付いた。子どもの気付きを一覧として掲示すると共に、印刷してノートに添付し、その後の活動の基盤となるようにした。教室で気付きを共有する時間では、子どもの日常生活の中にあるものを学習対象としているため、それを基にして話し合うことができた。対象と子どもとの距離的な近さは、課題追究に向かう子どもの主体性につながっていた。

② 子どもの知識の変容

本実践では、地域で雁木を活用した地域おこしに取り組んでいる方をゲストティーチャーとしてお招きした。雁木の教材研究でもお世話になり、その方から雁木の歴史や課題についてお話していただくことを念頭におきながら単元を構成した。子どもの中に、雁木に対する疑問が生じると予想される段階で、お話していただくことを依頼していた。

このゲストティーチャーからお話を伺った後に、子どもに大きな変化が表れた。学習する前は、雁木は「雨や雪の中でも歩きやすくするための工夫」という捉えでしかなかったものが、お話の後には、「400年前から続いているもの」「地域の人が協力し合って作り、維持してきたもの」という捉えに変わった。子どもの捉えが変わったことで、これまでの子どもがもつ経験も想起されることにつながった。例えば、前年度に行った総合的な学習の時間で学んだ福祉の視点から、雁木を捉える子どもの姿があった。本時(10/12)の活動において、どんな人でも歩きやすい雁木とはどのようなものかを具体的に考えていた児童Aは、単元の終末に設けたまとめの時間に、「雁木は、住んでいる人の生命を守るために造られたと聞いたけど、今でも同じです。段差はあっても、少なくともしようとしているから、住んでいる人のためにずっとあるものです。」と発言した。歴史的建造物である雁木を福祉の視点から捉え、自分にとっての雁木の意味を作り変えている。つまり、これまでに得た概念を対象とつなげていると捉えることができる。また、仲間の意見に耳を傾け、他者の意見も踏まえながら最後の一時間を過ごしていた。

③ 単元を通した子どもの学び

②のゲストティーチャーからのお話の後、雁木がもつ課題について話し合ったり、その課題を解決しようと活動を始めているもう一人のゲストティーチャーからのお話を伺ったりした。その方の思いを聞いた子ども数名が、ノートでの振り返りに、雁木がもつ可能性や高田にとっての雁木の価値について記述していた。単元終末での子どもの発言からは、本単元での学びはもちろん、日常生活やこれまでの学びが複雑に絡み合っていることが読み取れた。子どもの学びを線で捉えるとともに、その過程でどのような学びを行っているか、見取っていく必要があると感じた。

単元の最後に行った自作の記述式のテスト(図1)では、これまでの学びで得た情報を基に、これからの雁木の在り方や雁木についてどのように

高田に伝わる雁木	
名前	_____
なぜ、高田に雁木ができたのでしょうか。これまで学んだことをもとに、書きましょう。	
<input type="text"/>	
雁木がかかえる課題について、今、知っていることを書きましょう。	
<input type="text"/>	
高田にとって、雁木はどのようなものだと思いますか。今、考えていることを書きましょう。	
<input type="text"/>	
雁木のこれからについて、〇〇さんや△△さんからお話を聞きました。〇〇さんや△△さんのお話をふまえながら、雁木のこれからについて、あなたが考えていることを書きましょう。また、理由も書きましょう。	
<input type="text"/>	

図 1

考えているかを文章でまとめさせた。以下、子どもの記述の一部を抜粋したものである。

- ・雁木の景観を気にしたことがなかったが、見てみると、場所によってちがうことが本当によく分かった。私は、きれいな方が、まちに来た人がすてきだと感じてくれていいと思う。
- ・景観をそろえたい気持ちもわかるけれど、無理やりではなく、みんなで話し合って決めていこうとすることが大切だと思う。

どちらの記述からも、学習活動で自分が思考したことや雁木の捉え方の変化が読み取れる。

(2) 研究テーマに関わって

記述式のテストでは、児童30名のうち23名（77%）が、体験したことや授業で共有したことを基に自分の考えを記述することができていた。記述の内容については、歴史的価値よりも今日的価値について述べている子どもが多かった。これは、授業の終末の内容が子どもの考えの中で大きなウエイトを占めていたからだと考えられる。6名（20%）は、ゲストティーチャーから聞いたことをそのまま記述していた。1名（3%）が無答であった。8割近くの子どもの自分の考えを書くことができたことは一つの成果と言えるが、授業構成に課題があることも明らかとなった。子どもの中に潜在的にある雁木の歴史的価値に着目して思考することができるようにするために、授業の後半の持ち方には改善の余地があることが明らかとなった。

また、この活動を経た後、副読本にて十日町市の町づくりについての資料を読んだ際に、「高田で言えば、雁木だね」というつぶやきが出された。このような言葉から、歴史的な建造物及びそれにかかわってきた人々の願いについて学び、そこで得た概念を汎用的に用いていることが確認できた。雁木の歴史的価値と今日的価値について考えたことにより、一人一人の子どもの中に雁木の価値や雁木が抱える課題が意識付けられ、雁木を高田の特徴的な文化と捉え、他の社会的事象と関連付けて考えることができた。授業では、この発言をより深めながら、高田と十日町の2つの町に受け継がれる文化について比較しながら考えた。一部の子どもの気付きではあったが、全体で取り上げていくことで、子どもの概念の汎用性が高まっていく。

単元の学習を終え、数週間ほど経過した日の朝学習で、子どもと、高田の人口減少と雁木をテーマにしたルポルタージュの記事を読む活動を設けた。「やっぱり、高田の人口は本当に減っているんだ」「勉強したことが新聞記事になっているなんて、驚いた」などと感想を口にした。こうした子どもの発言や記事に書かれている事実に対する向き合い方に、本実践の意味が表れているのだと考える。つまり、子どもが得た概念が、子どもの社会的事象の捉え方に大きく関わっているということである。

(3) 今後の課題

① 実践の継続化

本実践において、子どもが自分の地域について愛着と誇りをもつことができた。また、歴史的なものやことに対する価値を自分の中につくるとともに、それらを受け継ぎ守ろうとする人の思いや願いを感じ取ることができた。しかし、他の単元との接続や本単元の位置づけを当校における1年間の学習活動および4年間の社会科学習の中に位置づける必要がある。そのためにも、本実践で行った学習内容および資料、雁木の保存にかかわる人とのつながりを資料として残し、次年度以降も継続して行っていけるように環境整備を行いたい。

② 学びの記録を残し続ける

教師の問いによって子どもの思考を焦点化するとともに、子ども一人一人の学びの道筋を損なうことなく、子どもの発言の根底にある思いや視点を大切にしていくことも必要である。そのためには、子どもが自分の学びを書き残せるような手立てが必要である。授業の内容と自分が考えていたことが結び付いたり、相互作用がはたらいたりして、自分の学びと教室での学びを往還することができる考える。今後の実践における視点としてもち続け、子どもとの活動を充実したものにできるようにしていきたい。

〈参考・引用文献〉

- ・文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』日本文教出版, 2018